

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 1 0 - 2 9 4 7 8 1

(43) 公開日 平成 1 0 年 (1 9 9 8) 1 1 月 4 日

(51) Int. Cl.

H04M 1/274

識別記号

庁内整理番号

F I

H04M 1/274

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平 9 - 1 0 3 2 5 4

(22) 出願日 平成 9 年 (1 9 9 7) 4 月 2 1 日

(71) 出願人 3 9 0 0 0 0 9 7 4

日本電気移動通信株式会社

横浜市港北区新横浜三丁目 1 6 番 8 号 (

N E C 移動通信ビル)

(72) 発明者 長野 康彦

神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目 1 6 番

8 号 日本電気移動通信株式会社内

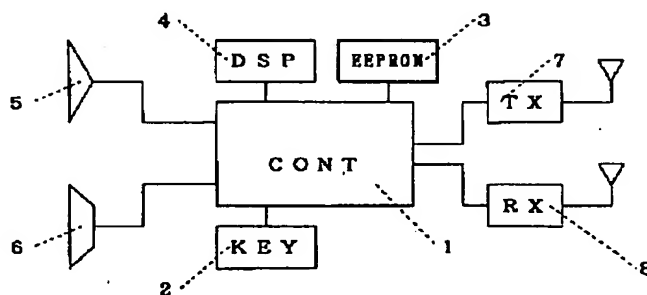
(74) 代理人 弁理士 山下 稔平

(54) 【発明の名称】 無線電話装置及び通信装置

(57) 【要約】

【課題】 メモリダイヤルからの発呼を行う時、短時間で容易に、目的とするメモリダイヤルを検索可能にするとともに、多くのメモリダイヤルを階層的に格納して整理しやすくした無線電話装置又は通信装置を実現する。

【解決手段】 メモリダイヤル機能を有する無線電話装置又は通信装置において、前記メモリダイヤルの登録時には、あらかじめ登録した複数のグループ名を表示し、選択された前記グループ内に前記メモリダイヤルを階層化して登録する手段 1 と、前記メモリダイヤルの呼出し時には、前記グループ名を表示し、選択された前記グループ内に登録されている前記メモリダイヤルを優先的に表示する手段 1 と、を有することを特徴とする無線電話装置又は通信装置。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 メモリダイアル機能を有する無線電話装置において、

前記メモリダイアルの登録時に、あらかじめ登録した複数のグループ名を表示し、選択された前記グループ内に前記メモリダイアルを階層化して登録する手段と、

前記メモリダイアルの呼出し時に、前記グループ名を表示し、選択された前記グループ内に登録されている前記メモリダイアルを優先的に表示する手段と、を有することを特徴とする無線電話装置。

【請求項 2】 前記メモリダイアルのデータを格納する際に、前記グループ名の情報も格納し、階層化構造として前記メモリダイアルのデータを管理することを特徴とする請求項 1 記載の無線電話装置。

【請求項 3】 メモリダイアルをグループ分けして階層化するためのグループ名の情報を記憶する手段と、前記グループ名を表示する手段と、

前記グループ内の前記メモリダイアルを優先的に表示する手段と、を有することを特徴とする通信装置。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】本発明は、無線電話装置等の通信装置に関し、特に電話番号のメモリダイアルへの登録を階層化して行なう無線電話装置に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】現在の無線電話装置は、相手の名前や電話番号データをメモリダイアルに 5 0 ～ 1 0 0 件程度登録する事が可能である。しかしながら、その中から一人のデータを読み出して発呼を行おうとする場合、登録データ数が少なればさほど問題は生じないが、たくさんのデータを登録している場合には、目的のデータを探すのが大変困難である。

【 0 0 0 3 】従来の無線電話装置では、特開平 3 - 1 8 4 4 5 3 号公報のように、目的のデータを読み出す方法として、キーパッドにより読み出す候補の相手の名前の頭文字または、連続する数字列や文字列を入力し、入力した文字の電話番号のデータを無線電話装置の画面に表示し、スクロールキーにより目的のデータを読み出すようになっている。しかし、実際読み出したい相手の名前をキーパッドにより入力する作業は面倒であり、メモリダイアルのデータの管理がばらばらであるため、仮に読み出したい相手の頭文字が分からない場合には、大変な作業になってしまう。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】第 1 の問題点は、従来の技術において、メモリダイアルに登録しているデータから目的のデータを頭文字のソートにより読み出そうとするとき、頭文字のキーパッドからの入力は面倒であり、仮に頭文字が分からないときでは、目的のデータを読み出すのが非常に困難であることである。

【 0 0 0 5 】第 2 の問題点は、従来の技術において、メモリダイアルへ電話番号を格納する際に、適当に格納するエリアの番号を指定するため、メモリダイアルに格納されているデータに規則性がなく、整理されていないということである。

【 0 0 0 6 】現在の携帯電話や P H S 等の無線電話装置では、5 0 ～ 1 0 0 件もの電話番号及び相手の名前をメモリダイアルに登録できるようになっている。しかしながら、いざ発呼動作でメモリダイアルを呼び出そうとしたとき、登録している番号が少ないうちはスクロールさせることにより簡単に呼び出すことができるが、何十件も登録している時には目的の番号を呼び出すのにたいへんな時間と困難がかかる。仮に、ソートで呼び出そうとしてもソートさせるための頭文字をキー操作で入力するのが面倒な作業となってしまうという問題がある。

【 0 0 0 7 】【発明の目的】本発明は、メモリダイアルへの電話番号データ登録を階層化し、メモリダイアルをいくつかのグループに分類し、グループ名を付け、発呼時のデータ検索を容易にするとともに、メモリダイアルのデータの整理を行うことを目的とする。

【 0 0 0 8 】

【課題を解決するための手段】本発明の無線電話装置又は通信装置は、本体内部に電源を O F F にしてもメモリダイアルデータが消えない不揮発メモリに電話番号データを格納する際に、グループ情報（グループの名前）もいっしょに格納し、階層化構造でメモリダイアルのデータを管理することを特徴とする。

【 0 0 0 9 】また、本発明の無線電話装置又は通信装置は、メモリダイアルの登録時には、あらかじめ登録した複数のグループ名を表示し、選択された前記グループ内に前記メモリダイアルを階層化して登録する手段と、前記メモリダイアルの呼出し時には、前記グループ名を表示し、選択された前記グループ内に登録されている前記メモリダイアルを優先的に表示する手段と、を有することを特徴とする。

【 0 0 1 0 】また、前記メモリダイアルのデータを格納する際に、グループ名の情報も格納し、階層化構造で前記メモリダイアルのデータを管理することを特徴とする。

【 0 0 1 1 】【作用】本発明の無線電話装置又は通信装置によれば、電話番号データをメモリダイアルに格納する際に、予め設定しておいたグループのどこに格納するのかを指定し、その階層化したグループの中に格納することにより、仮に通話したい相手の名前や電話番号を忘れてたとしても、発呼時に呼び出したい相手の電話番号をまずグループ名により選択するため、その中から候補のデータを素早く見つけ出すことが可能となる。また、メモリダイアルの電話番号データがグループごとに区分けされているため、データの整理が簡単となる。

【 0 0 1 2 】図 3 は、本発明の概念を説明する図であ

る。図 3 に示されるように、グループ名として、あらかじめ「カイシャ」、「プライベート」などのグループ名を登録しておき、メモリダイアルの登録時や、呼出し時に、これを表示する。メモリダイアルは、選択されたグループ内に階層的に登録され、呼出し時には、選択されたグループ内のメモリダイアルを優先的に表示する。

【0013】 このように、本発明によれば、メモリダイアルがグループごとに分かれているので、メモリダイアルデータの呼出しが短時間で容易にできるとともに、整理が可能となる。

【0014】

【発明の実施の形態】

〔1〕 構成の説明

次に、本発明の実施例について図面を参照して詳細に説明する。

【0015】 図 1 は、本発明の実施形態の構成を示すブロック図である。図 1 において、1 は制御部、2 はキー操作部、3 は不揮発メモリ、4 は表示部、5 はマイク、6 はスピーカ、7 は送信機、8 は受信機である。

【0016】 本装置では、電話番号データが格納されている不揮発メモリ 3 にメモリダイアルをグループに分ける際のグループ名のデータも格納している。

【0017】 また、図 1 の制御部 1 は、メモリダイアルの登録時には、あらかじめ登録した複数のグループ名を表示し、選択された前記グループ内に前記メモリダイアルを階層化して登録する手段と、メモリダイアルの呼出し時には、前記グループ名を表示し、選択された前記グループ内に登録されている前記メモリダイアルを優先的に表示する手段とを備えている。

【0018】 図 3 は、本発明の階層化されたメモリデータの構成の一例を示す図である。

【0019】 図 3 に示すように、本発明によれば、メモリダイアルを幾つかのグループ（階層化構造）に分類し、それぞれのグループの中にメモリダイアルデータを格納する。なお、グループ名はユーザにより、例えば、「カイシャ」「プライベート」などのように自由に設定できる。

【0020】 図 3 に示すように、メモリダイアルにデータを設定する時には、格納するグループ名（図 3 の①）を選択することで階層化構造によるグループ分けを行う。メモリダイアルデータをグループで分類することにより、発呼時のメモリダイアルの呼び出しを容易に実現することができる。

【0021】 また、メモリダイアルによる発呼を行う時には、最初に予め設定したグループ（図 3 の①）を選択し、そしてメモリダイアルデータ（図 3 の②）を選択するので、数十件のメモリダイアルデータを格納しておいても容易に目的のデータを読み出すことができる。

【0022】 〔2〕 動作の説明

次に、本発明の実施例について、メモリダイアルデータ

をメモリダイアルのグループに登録するまでの動作について、図 1 および図 2 を参照して詳細に説明する。なお、図 2 は、メモリダイアル操作時の処理を示すフローチャートである。

【0023】 まず、無線電話装置の利用者は、キーパッド（図 1 の 2）から定められたキー操作によりメモリダイアル設定モードに遷移させる（図 2 の F 1）。すると、予め利用者が設定しておいたグループ名が不揮発メモリ（図 1 の 3）から読み出され、制御部（図 1 の 1）によりグループ名が LCD 表示部（図 1 の 4）に表示される（図 2 の F 2）。その後、スクロールキー（「*」キーまたは「#」キーなど）により、利用者が電話番号データを格納したいグループ名を選択する（図 2 の F 3）。これらの動作を経て、相手の名前および電話番号等のメモリダイアルデータをキーパッド（図 1 の 2）により LCD の画面表示に従い入力する。

【0024】 上記の動作により、メモリダイアルデータが予め利用者が設定しておいたグループの中に階層的に設定される。なお、メモリダイアルのグループへの登録については、通常状態（待ち受け状態）の他にも、ダイヤル発信時や着信時にも登録可能なものであってもよい。

【0025】 次に、メモリダイアルに登録したダイヤルデータでの発呼動作について説明する。発呼動作の際も同様に、キーパッド（図 1 の 2）から定められたキー操作によりメモリダイアルデータを読み出す。すると、最初に LCD にグループ名が表示され、利用者は電話したい相手が登録されているグループ名をスクロールキーにより選択する。その後は制御部（図 1 の 1）が選択されたグループ名の情報を受信し、そのグループに登録されているメモリダイアルデータを不揮発メモリ（図 1 の 3）から読み出し、再び LCD 表示部（図 1 の 4）にダイヤルデータを表示する。利用者は再びスクロールキーにより目的のダイヤルデータを選択してキーパッド（図 1 の 2）から開始（オフフック）キーの押下により発信動作を行う。

【0026】 なお、本発明は、無線電話装置に限ることではなく、メモリダイアル機能を有する通信装置であれば、同様に実施可能なことは明らかである。

【0027】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明は、電話番号データをメモリダイアルに登録する際に予め利用者が設定したグループの中に階層的に登録することにより、利用者が電話したい相手の名前や番号を仮に忘れた場合にもグループ毎に区分けされているために、容易に、すばやく見つけ出すことが可能となる。

【0028】 更に、数十件のメモリダイアルを登録しておいても、グループ名単位で管理されているので整理が容易に行える。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施形態の構成を示すブロック図である。

【図 2】本発明の実施形態の動作を示すフローチャートである。

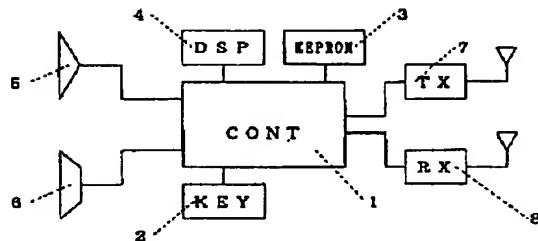
【図 3】本発明の階層化されたメモリデータの構成の一例を示す図である。

【符号の説明】

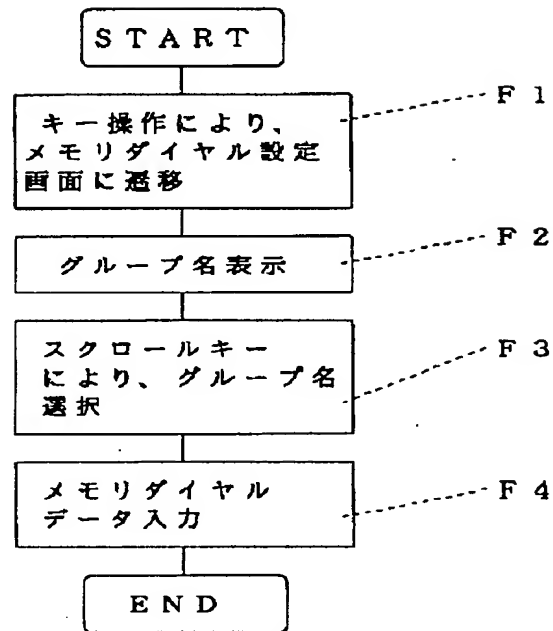
1 制御部

2 キー操作部
3 不揮発メモリ
4 表示部
5 マイク
6 スピーカー
7 送信機
8 受信機

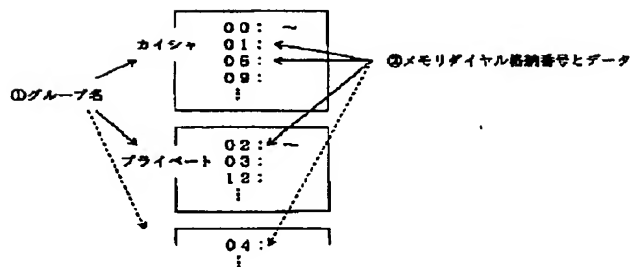
【図 1】



【図 2】



【図 3】



メモリダイヤルの階層化構造イメージ

※ メモリダイヤルデータによる発呼動作を行うときは、最初に①のグループ名を選択し、次にそのグループ内にある②のメモリダイヤルデータを選択する。